

# 第32回 日本篆刻展開催

日本篆刻家協会主催「第32回 日本篆刻展」が平成28年4月20日(水)から4月24日(日)まで開催された。

昨年までの会場である兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリーが耐震工事により使用できず、兵庫県立美術館本館ギャラリー棟3階に会場を移しての開催となった。

安藤忠雄氏設計による斬新かつモダンな本館に展示された作品群は、古典に基づいた本格的な作品から近代的で目新しい先駆的作品まで、まさに「温故知新」建物の雰囲気とマッチして見る者の目を楽しませた。

ケース内に特別展観の「硯」



日本篆刻家協会会報

第17号 平成28年9月30日発行  
発行：日本篆刻家協会  
563-0032 池田市石橋2-2-10-203  
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853  
E-mail: info@n-tenkoku.jp  
http://www.n-tenkoku.jp



理事・参与・評議員作品

訪中団報告コーナー



会員・委員作品

硯の解説コーナー

第三十二回日本篆刻展「授賞式」

あいさつをする井谷理事長



真鍋副理事長から受賞者代表に授与



兵庫県企画県民部芸術文化課の白川智子副課長



神戸市市民参画推進局文化交流の吉國雅博担当課長



兵庫県芸術文化協会の高橋利雄総務部長



受賞者代表による謝辞



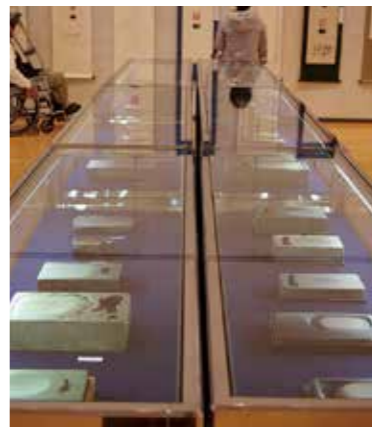
四月二十三日午後、ANAクラウンプラザホテル神戸で開催され、全国から二〇二名が参加した。第三十二回展の概要報告および本年度審査員の紹介の後、賞状賞品授与に移った。公募・会員・委員の部では、会員推薦賞、秀作賞、特選、日本篆刻展奨励賞の受賞者が紹介され、真鍋井蛙副理事長から代表者に賞状が授与された。常任委員・評議員の部では、日本篆刻展優秀賞、同準大賞、同大賞、梅舒適賞の受賞者が紹介され、井谷五雲理事長から各人に賞状・副賞が手渡された。また寄託賞については、神戸市長賞・神戸市教育委員会賞は神戸市市民参画推進局文化交流の吉國雅博担当課長から、兵庫県知事賞・兵庫県教育委員会賞は兵庫県企画県民部芸術文化課の白川智子副課長から、兵庫県芸術文化協会賞は兵庫県芸術文化協会の高橋利雄総務部長からそれぞれ受賞者各人に贈られた。そして来賓紹介に続き、兵庫県白川智子副課長の祝辞があり、受賞者を代表して大賞受賞の大倉義氏が謝辞を述べた。(松本雅至)

井谷理事長から個別に優秀賞を授与

特別展観の硯に見入る参観者



特別展観として『会員所蔵中国硯』の歴史と美』と題して展示がなされた。古代硯から四大名硯までの系統立てた展示と解説パネルの掲示により、『硯』について十分な知識の習得と鑑賞をすることが出来、貴重な勉強の機会となった。また、日本篆刻家協会の公式行事として昨年実施された、南寧での『第二回日中篆刻芸術展「上善若水」開幕式参加団の活動報告についても、パネル展示での報告があった。



特別展観の硯

第三十二回日本篆刻展は、公募作品四七点(昨年比△六六)、会員作品二二四点(昨年比△一点)、委員作品一八一点(昨年比△二〇点)、常任委員作品二〇八点(昨年比△五五)、役員作品二〇八点(昨年比△六六)の合計八六一点(昨年比△二六六)が展示された。近年出品数の減少が目立っていたが、今年度は二九%の減少にとどまった。

併設の『第三回小中学生篆刻作品展』には、今年も全国各地から四九三点の作品が寄せられ、三年続けて五〇〇点近い作品が展示された。内訳として、小学一年生二一点、小学二年生四〇点、小学三年生六三三点、小学四年生七五五点、小学五年生七六六、小学六年生一〇六六、中学一年生四五五、中学二年生三六六、中学三年生三二二点であった。三年連続出品の「常連篆刻家」もあり定着しつつある様に感じた。作品も篆書を使い古典に基づいた本格的な作品から、似顔絵やイラストを用いた肖形印まで、それぞれが楽しみながら篆刻に携わっている風景が想像でき、微笑ましく感じた展覧であった。(黒田玉洲)



自分の作品を見つける家族

### 第八回日本篆刻家協会役員展

第八回日本篆刻家協会役員展が茨城県古河市の篆刻美術館において四月二十九日(金)から六月二十三日(木)までの約二ヶ月間の日程で開催されました。今年展示した役員の仕事が、理事が三十九点、常務理事以上が三十八点、関東地区の参与・評議員の額装作品十点を加えて計八十七点でした。五月八日には井谷五雲新理事長の来館があり、篆刻美術館の伊藤館長への表敬訪問が行われました。展示の観覧のあと、昼食をとりながら、伊藤館長との懇談が行われ、来年の臨時の措置による展示や、



今後の役員展の進め方等について積極的な意見交換があり、有意義な訪問となりました。篆刻美術館は古河市の城下町にあり、且つては、江戸からの水運の港も栄えた、史跡の数多く残る街でもあります。第二次大戦の戦禍もうけなかったところから、史跡巡りのウォーキングをされる方も多く、この蔵造りの美術館にも見学に訪れて頂けたようです。五月には、千葉県の東京湾の西端にある館山市を中心に組織する館山篆会からは、バスを仕立てた団体での見学や、都内の書道会の団体参観もあり、期間中の観覧者は関東一円から一〇八三名でした。来館者からは、所謂篆刻額サイズの作品ではなく様々に表現された作品を観ることが出来て楽しかったとの声も聞くことができました。

(香壇篆会 三枝龍泉)

### 出品者懇親会

引き続き、同所で出品者懇親会が開催され、受賞者を祝福した。井谷五雲理事長あいさつの後、来賓紹介(別掲)、兵庫県立美術館豊館長、大阪府日中友好協会大藪二郎副理事長から来賓祝辞、上位入賞者紹介等が行われ、全国からの参加者が歓談、交流を深めた。

祝辞をのべる豊館長



紹介される梅舒適賞受賞者

### 生誕百年 梅舒適展

三月三日から二七日にかけて兵庫県立美術館ギャラリー棟三階において日本篆刻家協会初代理事長、梅舒適先生の「生誕百年 梅舒適展」が開催された。初日には、立錫の余地もないほどに集った多くの来観者の中、開会式が行われた。主催者挨拶として稲田和子様(梅舒適先生令夫人)が謝辞を述べられ、豊館長(兵庫県立美術館館長)より祝辞を賜り、テープカットが行われた。



- 主な来賓
- NPO法人大阪府日中友好協会 大藪二郎副理事長
  - 中国西冷印社 韓天雅理事
  - 兵庫県立美術館 豊館長
  - 兵庫県企画県民部芸術文化課 白川智子副課長
  - 神戸市市民参画推進局文化交流部 吉國雅博担当課長
  - 公益財団法人兵庫県芸術文化協会 高橋利雄総務部長
  - 兵庫県書作家協会 伊藤一翔理事長
  - 他 計一一人



主な来賓

術館館長)より祝辞を賜り、テープカットが行われた。会期は五日間と短いこともあり、終日多くの梅舒適ファンにより会場は埋め尽くされた。遠く関東からも多くの印人たちが集い、梅舒適先生を偲んだ。また、大型バスをチャーターして駆けつけた団体も何組あった。稲田(梅)家所蔵品を主とした三百有

余点に及ぶ書・画・篆刻作品群は、来観者を圧倒した。詩文題材別、作成年代順、連作等のテーマ毎に配置された篆刻作品は梅舒適趣味を感じさせ、書画大作は見ると魅了した。作品と併せて展示された梅舒適年譜、語録等を見るにつけ、篆刻展ではうかがい知れない先生の一面を感じる事が出来た。篆刻愛好者は言うに及ばず、先生の書画作品は漢字や仮名を専門とする書家の先生方にも大きな反響をもたらした。後日、「会期の都合で、どうしても美術館に行けなかった」という声を各方面から多く聞いた。五日間という会期の短さが本当に惜しまれる、すばらしい展覧会であった。

(池田泥真)



# 第九回 中央研究会

平成二十八年八月六日(土)〜八日(月)の三日間、シーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催され、全国から二四九人が参加した。

一日目

正午より受付開始。午後一時三〇分、喜多芳邑の司会で開会。井谷五雲理事



講義をする井谷理事

長挨拶、配布された分刻課題冊子「名家端硯詩印興」についての説明が引き続きなされた。今回の分刻については、理事長がいくつかの工夫を凝らされた。まず今回の研

究内容が「硯の研究」であることより、端硯を詠んだ詩九首選び、印社、地域により班の構成をし、班長が詩の題字を書くというものである。印文は班内で決定し副班長がその世話をするという仕組みである。

舞子の間には四大名硯を中心として展示され、後方では、理事長所蔵の硯譜や沈氏硯林等の本等、資料が示される中、井谷五雲理事による「硯の研究」中国硯の歴史と美」と題した講義があった。講義と合わせて、端硯等の名硯を身近に鑑賞することができ、硯に対する見識が深まった。講義終了後、各自部屋に移動

名硯を近くで鑑賞



硯鑑を見る

し、課題制作に取りかかった。

夜は東京より柳濤雪先生、斎藤寛先生をお招きし、黒田玉洲代表理事の司会進行で懇親夕食会を開催した。山下方亭常任顧問の乾杯で始まり、その後カラオケの余興もあり大いに盛り上がった。その後、池田泥異、松本雅至、出田塘菫、中村葉舟四名の常務理事による添削指導が行われた。別室にて並行し、企画委員会、印社代表者会議が開催された。

夜遅くまで熱心に



添削指導



印社代表者会議

二日目

九時より「木印の制作」である。日本篆刻連盟副理事長、柳濤雪先生の実演による講義および参加者による実作である。はじめの一時半ほどは、先生の篆書作、朱白混合印の実演である。側款まで刻され乾拓をとり押印された。尚、作品は協会に寄贈され、夜のオークション後抽選により参加者が頂戴し



実演する講師 柳濤雪先生



紐も見事な木印を見る

た。教材提示装置とプロジェクターにより、先生の手元も鮮明に見ることができ、運刀の見事さに驚くばかりであった。

提出された分刻課題を見る



た。小朴圃代表理事のお礼の言葉で午前中の講義は終了した。参加者に対する実技指導は、柳先生、斉藤先生による机間巡視しながらの懇切丁寧なものであった。午後二時頃、両先生は帰路につかれたが、続けて制作に励む参加者も大勢いた。柳先生、中村蘭台の刻印も拝見し、実のある木印制作の経験ができたと思われる。

夕食会は、松本雅至常務理事の司会で進められ、古溝幽畦常務理事からは各公募展成績発表があった。又、尾崎蒼石常任顧問の大府知事表彰、井谷五雲理事長の中国芸術院研究員就任をお祝いし花束の贈呈を行った。午後八時三〇分からは昨年同様、東尾高岳理事の司会でオークションが行われ、五〇点余りの出品があり楽しい一時を過ごすことができた。

三日目

チェックアウト後、舞子の間に集合し分刻課題を提出した。木印については提出自由としたが多くの力作を見ることができた。中島春緑副理事長の講評と自身の研究された鳥虫篆印存の資料でお話いただいた。恒例により、各種展覧会案内をし、理事長挨拶にて研究会の幕を閉じた。第一〇回中央研究会も多く参加者を期待する。(喜多芳邑)

## 西冷印社金石篆刻名家演講會

五月十四日午後、神戸市中央区の兵庫県民会館で西冷印社金石篆刻名家演講會が開催され、百二十人が参加した。これは西冷印社から関西地域で同講演会を開催したいと当協会に協力依頼があったもの。中国書法家協会理事、西冷印社副社長の李剛田氏による「中国の書の現状」の他、「拓本」、「印泥」についてスライドを使つての三人の講演が続いた。

講演会終了後同所で、同行の中国訪日団二十人と当協会幹部の交流会がもたれた。

李剛田氏の講演要旨は次のとおり。

中国では今、書道ブームが起きており、発展・繁栄の時期にきている。書道展



を通し書道人口が増え、書道スターが生まれており、書道産業も栄えている。その中で展示の方法も昔と変わり、作品も小さな物から大きな物へと変化している。筆は昔からの伝統的な物から、個人に合った個性的な作品を書きやすい物になり、紙は大判でデザイン性の高いものが増えてきている。墨も大判の作品を書くために墨汁を使うようになってきている。

作品の文字が大きくなることで、問題が起きている。作品を見る人が、じっくり見なくなつてきている。作品一つ一つを見るスピードが速くなることで、書かれている作品の内容まで意識しなくなっている。本来、作品は真(作品の題材の内容)、善、美が三位一体となつて良い作品が生まれるものである。しかし、現代はデザイン性や技術への意識が高くなり、中身が薄れてしまつていくことが懸念されている。展覧会の入賞作品を見ても、文字本来の自然さが失われて、個性を追求したものが多くなつてきている。真・善・美の揃つた作品を作つていかなければならない。(井後雅堂)

二月課題 「浅則掲」

二月課題 「浅則掲」

役員 (多田龍淵選)

常任委員 (奥田農生選)

委員 (梶川久美子選)

會員 (梶田稻洲選)

一般 (草田翠苑選)

役員 (伊藤雅夫選)

常任委員 (堤白遊選)

委員 (中村葉舟選)

會員 (南岳泉靈選)

一般 (長谷川帰海選)

役員 (中島春緑選)

常任委員 (熊本夕生選)

委員 (黄平齋選)

會員 (榊原晴夫選)

一般 (田中修文選)

役員 (黒田玉洲選)

常任委員 (古溝幽畦選)

委員 (松本雅至選)

會員 (御手洗眉山選)

一般 (池田泥巽選)

三月課題 「翻焼餅」

三月課題 「翻焼餅」

役員 (中島春緑選)

常任委員 (熊本夕生選)

委員 (黄平齋選)

會員 (榊原晴夫選)

一般 (田中修文選)

役員 (黒田玉洲選)

常任委員 (古溝幽畦選)

委員 (松本雅至選)

會員 (御手洗眉山選)

一般 (池田泥巽選)

四月課題 「呼牛呼馬」

四月課題 「呼牛呼馬」

役員 (伊藤雅夫選)

常任委員 (堤白遊選)

委員 (中村葉舟選)

會員 (南岳泉靈選)

一般 (長谷川帰海選)

役員 (黒田玉洲選)

常任委員 (古溝幽畦選)

委員 (松本雅至選)

會員 (御手洗眉山選)

一般 (池田泥巽選)

五月課題 「燕雀相賀」

五月課題 「燕雀相賀」

役員 (黒田玉洲選)

常任委員 (古溝幽畦選)

委員 (松本雅至選)

會員 (御手洗眉山選)

一般 (池田泥巽選)

六月課題 「鳥之雌雄」

六月課題 「鳥之雌雄」

役員(酒居石莊選) 燕安

常任委員(伊佐治祥雲選) 明

委員(石原豊玉選) 極浦

会員(出田塘菴選) 幽篁

一般(奥田農生選) 鈴輪

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

役員(酒居石莊選) 燕安

常任委員(伊佐治祥雲選) 明

委員(石原豊玉選) 極浦

会員(出田塘菴選) 幽篁

一般(奥田農生選) 鈴輪

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

役員(酒居石莊選) 燕安

常任委員(伊佐治祥雲選) 明

委員(石原豊玉選) 極浦

会員(出田塘菴選) 幽篁

一般(奥田農生選) 鈴輪

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

七月課題 「家書抵萬金」

七月課題 「家書抵萬金」

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

役員(小朴圃選) 明峯

常任委員(梶川久美子選) 浩佳

委員(梶田稻洲選) 景司

会員(菅田翠苑選) 梅風

一般(熊本夕生選) 義男

展覧会成績

第七〇回 日本書芸院展

史邑賞 黒田玉洲

大賞 池田泥異 岸村爽風 竹内立女 妻鳥明子 中田東光 畑間青露

特別賞

池谷宝樹 石留之然 片畑仁美  
黒田悦子 嶋田杏園 高橋忠義  
谷椋洲 西岡青淡 花房浩佳  
平田琴風 藤澤涼子 丸山沙舟  
蒔岡慶石 木村行石

第三〇回 讀賣書法展

讀賣新聞社賞 竹内立女

俊英賞 出田塘菴

奨励賞 井後雅堂

特選

畑間青露 大野勝山 安井芳泉  
戸出九庵

秀逸 仲井祥風 青黄游魚 河村千紅  
坂東香璋 平田征男 稲垣華扇  
寺田清雲 武田黎秀 山吹緑  
宮越素翠 寺田和仁 青木雄山  
三枝龍泉 松本清苑 中井榮子

会員の作品の紹介

五ページの第八回日本篆刻家協会役員展が開催された茨城県古河市の篆刻美術館には別棟の「美術学習室」があり、館が主催する一般人向けの「篆刻講座」や「初心者体験印刻」も行っていますが、この部屋の道路側には展示コーナーがあります。そ

の展示の中に、古河役員展の記事を記した三枝氏の手による、「鈕」を刻した作品があります。これらの作品は、来館時の理事長に激賞されました。それは見事な出来栄ですので、その一部を写真で紹介いたします。ご覧下さい。(市川両僊)



青鏡忘詠(十三) 小朴圃

「朝飯前」



近ごろはいろんなところで高名な先生と会う機会が多くなった。その先生に限らず、それらの先生方は会議や祝宴が一つや二つではなく、書作は一体いつどのようによつておられるのかを尋ねたところ、答えは「朝だ、早朝に起きて朝食前に書く」と。この言は実際複数の先生方から聞いた。

そうかあとと思ひ、小生も夜型から朝型に変えている。早く言えば朝早く目が醒める年齢になったということではあるが、朝食前に一つの作品が出来上るといふことは、一日の始まりとして実に気分の良いもので

はある。

さて、掲出の印は萬印樓製のために刻したものだ、辺款にあるとおり、刻了のころ偶々雀が二羽窓辺に寄つてきて「チツチツ」と、まるで出来具合を雀がのぞきに來たようで、欣喜雀躍という大げさになるが、欣然としてこの語を刻りつけたことである。

その後、雀の來訪が無いのは或いは、あまりの不出來に見限られたのかも知れない。それらこの続きを林下田間誰と共に語らん。



最後に縦界線に関する吳昌碩の処理方法を三例挙げておくのでこの細さの意味や「遠」の収筆の長さを考えてみるのもこの名作の鑑賞として大切なポイントとなろう。



写真提供「篆刻」

収筆部に見られる空間の空気が以前から気になっていた。印面を見ると「遠」の収筆部分が不自然に剥離しているのが分かる。吳昌碩の布字は、もう少し長かったであろうと思う。もっと長く刻そうとした刀痕がこの拡大写真により分かるであろう。生で見ると「遠」字収筆のザラザラとした質感は、それが剥離によるものであることは容易に想像できる。

また、中央縦界線には数度の補刀の跡が見られる。印影を見ると、他の吳昌碩の作よりも少々細く感じるのは私だけであろうか？この意図は私には分からないが当初の計画よりかなり補刀が加えられ、ここまで細くなったことは事実である。



写真提供「篆刻」

この印は、先回に紹介した「犬養毅印」(白文)と対章になっているもので高山の美材である。側款は単に「老缶製」のみであるがおそらく七十年代前半の作であろう。(吳昌碩に対する木堂の依頼はこの頃に集中する)さて、この印はあまりに有名で様々な本で識者の皆さんが解説をしておられるので、この稿では印面を詳細に観察し、気付いたことを述べてみる。

縦界線の収筆部と「子」と「遠」の



写真提供「篆刻」

## 月例作品募集（2017年）

月	課題	出典	意味
1月	無為	老子	自然のままなこと。
2月	従所好	論語	好きな生活に向かおう。
3月	行己有恥	論語	自分の行動について何が恥になるかということをわきまえていること。
4月	心手雙暢	書譜	揮毫をするとき、心も腕ものびのびして流暢である。
5月	得其楽	晏子春秋	その楽しみを得ること。
6月	獨往	莊子	俗人を連れずにひとりで行く。
7月	消夏閑無事	袁枚詩	夏の暑さをしのぎながらひまですることもなく。
8月	聊自楽	魏書	自分で楽しむこと。
9月	龍得水	五灯会元	龍は水を得てこそ、その勢いを振るう。
10月	少無宦情	魏書	小さいときから、役人となり仕えたいという世俗的な気持ちはない。
11月	斬釘截鐵	朱子語類	決断力があって言動がてきぱきしているたとえ。
12月	古人重讀書	吳震方詩	昔の人は読書を重んじ。

### 応募要項

- ① 一般は一般を、一般以外は資格と会員CDを必ずご記入ください。未記入の場合は審査対象外となります。
- ② 印の大きさは一寸以内、用紙は協会指定印箋（篆社印箋も可）
- ③ 応募は各月1人1点、締め切りは各月末日（消印有効）

送付先 〒563-0032 大阪府池田市石橋2丁目2-10 牧野ビル203

日本篆刻家協会「〇月課題」係

お問い合わせ（協会事務所）TEL072-760-3852

## 各印社活動 トピックス

### 第三十二回随風會書法篆刻展

本年より随風會書法篆刻展と名称を変更して第三十一回展を六月一日から五日までの五日間、京都市美術館二階にて中国芸術研究院中国篆刻芸術院との交流として駱芃芃委員長以下三十名、六十余点の出品、京都市美術館八十三周年特別企画「格調 四王呉俎展」を開催、更に東京中央オークションより戦国漆韻中国古代漆器展を併催しました。随風會會員準会員七十六名は二×六から対聯、篆刻額までの作品を出品展示しました。



華やかに開幕式、テープカット並びに祝賀会を開催しました。熊本地震救済、和鏡ワンコイン採拓にも多数の方々に参加ご協力を頂き、義援金約七万円は益城町に直接送らせて頂きました。約一五〇〇人の入場者があり盛会裏の内に終了いたしました。（中村葉舟）

### 第二十回好日会書法篆刻展

初夏の爽やかな陽射しの中七月一日から五日迄開催しました。二十回展ということで会場も新たに今迄とは気分を一新して「じゅろくてつめいギャラリー」。広々とした空間で重厚感があり書の会に相應しく良い会場だと好評を得ました。



テーマは「吉祥語」で半折大作品の額や軸装など八十点余り。合作作品は吉祥語印の一文

字を篆書で書き余白に印を鈴し、会場の中央には吉祥語の印を刻して四十顆の印材と印譜を展示しました。

梅舒適先生大澤碧水先生所洞谷先生のお作品も展示させて頂き、旧知の方に喜んで戴きました。自由作品は会場の雰囲気感触されて私は毛筆二行書にその中の語句を二印刷し側款拓を添えた聯を製作し会員は半折以上の作品で個性と共に二十回の歩みを感じられ感慨も一入でした。

今回のような印譜と印材を並べての書道展は岐阜では珍しく来場者からは是非これからも続けてとの励ましのお言葉を頂きました。（田中緑翠）

### 第三十五回六轡會篆刻作品展

去る八月十七日（二十一日）、第三十五回六轡會篆刻作品展が京都文化博物館にて開催された。三十五回の記念展ということで会場を例年の二倍とし、大変華やかな雰囲気になりました。第一室の左壁面には、井谷五雲先生の額装作品「魚玄機十詩句印興」、十点、右壁面には同じく井谷五雲先生の絹扇軸装作品「魚玄機詩句印興」、九幅の展示。第一室の正面壁面は第二室の壁面へと繋がり、真銅井蛙先生の軸装作品二十一幅の展示。これらの書畫は清水比庵を意識されたものであった。第二室へ曲がついていくと右正面壁面に中国の封筒を解体して書かれた小朴圃先生の額装作品十二点、左壁面に同じく小朴圃先生の朱梓額装作品八点が展示されていた。第一室の机



上には過去三十五回分の案内状が冊頁にはめ込まれて看者の興味を引いた。梅舒適先生が若い六人の先生方に夢を託して名付けられた「六轡會」の願いがこもった文面が感動的だった。案内状の意匠の変遷も面白かった。第二室の机上には、この三十五回展に向けての東西の著名書家・篆刻家の先生方二十九名のお祝いの作品が冊頁に仕立てられ、書・畫・篆刻・詩と多岐に亘った多彩な作品は心暖まるものだった。第二室を出て受付へ繋がる通路の壁面には先生方お二人ずつの合作六点が展示されていた。

十八日の夕方には京都グランピアホテルで祝賀懇親会が開催され、東西の先生方や門下生など計八十名が集い、交流を深めた。九月の末には中国杭州西冷印社で六轡會の書畫篆刻展が開催される運び。その成功を祈り、報告とする。（畑間青露）



# 展覧会案内

▼井谷五雲・小林圃・真鍋井蛙

扶桑六瓣会書画篆刻作品展

会期 九月二八日～一〇月三日  
会場 西冷印社中国印学博物館

▼齊平篆会(真鍋井蛙)

第一九回齊平展 テーマ展示「風」字印

会期 九月三〇日～一〇月二日  
会場 大阪産業創造館三階マーケットプラザ  
併催：会員蔵生誕百年梅舒適先生作品展

▼畦石舎(小林圃)

篆刻・書・画 第三二回畦石舎作品展

会期 一〇月一日～二日  
会場 日図デザイン博物館

▼遠邇篆会(伊藤雅夫)

第二五回遠邇篆会会展

会期 一〇月五日～一四日(一〇日は休館)  
会場 磐田市立図書館

▼不華篆会(酒居石柱)

デザインとして見る篆刻の展開  
不華篆会習作展XXIV

「月」字をデザインして生活の中に書・篆刻  
会期 一〇月二八日～三〇日  
会場 伊丹市立工芸センター  
一二月二五日～二七日に兵庫県立丹波の森公苑で巡回展

▼関中印社(平田蘭石)

第一四回関中篆刻・篆書展

会期 一〇月一七日～二〇日  
会場 関市文化会館二階個展室他

▼篆誦社(古溝幽畦)

第九回篆誦社游藝展

会期 一〇月二五日～二七日  
会場 アートホール神戸

▼池田泥異・喜多芳邑・黒田玉洲・古溝幽畦

第三回一隅会展

会期 一〇月九日～一一日  
会場 アートホール神戸

▼井後雅章・石留之然・稲垣華扇・北田成祐・東尾高岳  
第三回伍葉展  
会期 二〇一七年一月二〇日～二二日  
会場 神戸元町 みなせ画廊

# 協会行事

理事会・総会・新年会

一月一〇日(日)  
大阪ベイタワーホテル

第三三回展 出品締め切り 一月末

第三二回日本篆刻展 審査会

二月二日(日)  
神戸市産業振興センター(神戸ハーバーランド内)

生誕百年 梅舒適展

三月三日(水)～三月二七日(日)  
兵庫県立美術館 東側別館三階

第三二回日本篆刻展

四月二〇日(水)～二四日(日)  
兵庫県立美術館 本館 ギャラリー棟

授賞式

四月三日(土)  
ANAクラウンプラザホテル神戸

第八回日本篆刻家協会役員展

四月二九日(金・祝)～六月三日(木)  
古河市立篆刻美術館

第九回中央研究会

八月六日(土)～八日(月)  
シーサイドホテル舞子ピラ

予定

常務理事会  
十二月三日(土)  
錦城閣

理事会・総会・新年会  
二〇一七年一月九日(月・祝)  
大阪ベイタワーホテル

第三三回日本篆刻展 審査会

五月二〇日(土)～二二日(日)  
兵庫県立美術館 王子分館(原田の森ギャラリー)

第三三回日本篆刻展

七月二日(水)～七日(祝)  
兵庫県立美術館 王子分館(原田の森ギャラリー)

授賞式

七月二五日(土)  
ANAクラウンプラザホテル神戸

第二〇回中央研究会

八月五日(土)～七日(月)  
シーサイドホテル舞子ピラ

## 慶事報告

祝 常任顧問 尾崎蒼石先生

平成二八年度大阪府知事表彰  
(芸術文化) 受賞  
平成二八年五月三日付

祝 理事長 井谷五雲先生

中国芸術研究院篆刻芸術院  
研究員就任  
平成二八年六月三〇日付

## 弔事報告

悼 名誉理事 久米義山先生

平成二八年八月五日没

## 編集後記

ラグビーワールドカップ二〇一五で南アフリカに歴史的な勝利を取め、一気にラグビーブームに火が付いた。難しいルールは解らないもののテレビでラグビーの試合を見る機会が増えた。

思い起こせば一九九三年Jリーグ開幕の年。サッカーブームが到来した。ガラガラだったスタジアムにサポーターが押し寄せ、満員の中で試合が行われるようになった。競技者人口も増え、今では世界で活躍する日本人プレイヤーも数多く存在する。

書道界では、ユネスコ無形文化遺産登録『日本の書道文化』書き初めを特筆して『の登録を目指している。是非登録が実現し、これを機に書道ブームに火が付き、書道人口が増えて、篆刻を志す人達が多く現れることを望んでいます。(戸出九麿)

編集・公報部  
酒居石柱 木村容庸  
内田真弓 戸出九麿

お気づきのこと、ご意見など  
事務所までお寄せください。

MAIL FAX  
072-760-3853  
info@n-tenkoku.jp